

2017年度（平成29年度）社会福祉法人藤雪会 事業報告

法人本部

藤雪会は安心を支えます

今年度の事業計画に本部の課題を3点あげました。

1. 事業の質を高め、それを支える人材を育成する。
2. 介護・保育ともに、職員不足を補う。
3. 古い施設の建て替えを進める。

1. 「課題の1と2」事業の質を高め、それを支える人材を育成することと職員不足を補うために
 - ① 理事長・業務執行理事・事業正副部長が、毎月、全事業所のリーダー会議（業務会議）を主催し、事業および会計の状況、事故・苦情およびヒヤリハットの提出状況、職員の状況などの報告を受けました。現場で解決できることは速やかに会議で協議し、解決困難なことや重要テーマは本部で受け取りました。
 - ② 毎月、本部会議（理事長・事業正副部長）を開催し、計画に沿った事業の点検と修正を行いました。業務会議での重要課題の解決策を協議するとともに、職員研修の検討も中心テーマとしました。
 - ③ 高齢事業部、子ども事業部それぞれ施設長連絡会を毎月開催し、各事業所報告をしながら、相互に学びアイをしました。
 - ④ 年に1回11月から12月にかけて、常勤職員を中心に、理事長（事業部長同席）による職員個人面接を行いました。昨年までは、子ども事業部だけ行っていましたが、今年から高齢事業所も開催しました。（非常勤職員は、各事業所内で、施設長が面接しています。）

職員の法人に対する信頼感を育てることと、風通しのよい職場環境をつくること、法人方針を直接伝えることなどが目的です。

今年の面接で、

- (1) 事業所内のパワハラへの訴えがあり、調査の結果事実が判明しました。加害者には、叱責の上異動を命じましたが、残念ながら退職しました。被害者には、気付かなかったことを謝罪し、現場での事業建て直しに協力してもらいました。他事業所のリーダーの多大な協力があり、現在は、落ち着いて事業が回っています。
- (2) 子ども事業所で常勤職と非常勤職間のトラブルの訴えもありました。そこで、当該事業所の非常勤職員の面接も行き、実態を把握したうえで、会議や人事の組みなおしをしました。（会議：リーダーによる業務会議を廃止し、職

員会議に理事長と事業副部長が参加する。 人事：非常勤2名を常勤とする)その後、トラブルの中心だった職員が退職しました。現在、新しいリーダーの下、職員も増え、質の高い事業所に変わりたいと努力しています。)

- ⑤今年度は、近年になく、職員応募が多かったです。職員募集サイト「マイナビ」と契約しましたが、新卒対象のせいか、全く結果が出ませんでした。しかし、各事業所ともハローワークや職員による紹介が多く、緊急事態は脱しています。新規事業所「保育園ゆいまあむ」も年末には職員が集まりスムーズに出発できました。社会全体で新卒者の求人は1.8倍ということ、とても小さな福祉事業所への応募は期待できません。私たち福祉の現場は、経験者の応募に期待します。職員紹介が有効です。

2017年度の退職と採用（1ヶ月以内の退職者は未記載）

2017年度 職員採用・退職者数 集計							
施設名	採用		退職		年間増減		常勤退職の主な理由
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	
厚木南地域包括	2	0	0	0	2	0	
あさひ	3	4	1	3	2	1	ケアマネが2ヶ月で退職
戸室	1	10	3	7	-2	3	2人転職後、非常勤で再雇用
本厚木	0	5	0	6		-1	
中山	0	7	0	7		0	
市ヶ尾	0	0	0	1	0	-1	
緑	0	9	2	9	-1	0	他職種へ
高齢事業部計	6	35	6	33	0	2	
まんまる	3	0	1	0	2	0	転居
ViVi	5	1	4	1	1	0	3人は、2ヶ月で退職 1人転職
おひさまっこ	1	1	2	0	-1	1	家族介護と転職
そらまめ	0	2	0	0	0	2	
もものか	0	1	3	3	-3	-2	1人病気 2人転職
せせらぎ	1	1	0	0	1	1	
小さなほし	2	0	2	2	0	-2	出産と転職
ゆいまあむ					0		
とんとん	1	1	1	2	0	-1	トラブル回避
子ども事業部計	13	7	13	8	0	-1	
法人計	19	42	19	41	0	1	

⑤ ユニバーサル就労を実践しました。

障がい者の雇用を促進しています。藤雪会の国基準は、常勤換算職員 4 人の雇用が必要ですが、現状常勤換算 6.5 人います。国からは、障がい者雇用調整金を申請しています。

また、精神障害者等が仕事復帰するためのボランティアの受け入れ、その後非常勤職員としての受け入れも積極的に行っています。結果障害者雇用率が高くなっています。

障害ある職員やボランティアに配慮した受け入れの姿勢は、必然的に利用者への尊厳をもつことにつながります。

2. 施設の建て替え

今年度は、ほぼ、施設づくりに支援と専念しました。

- ① 保育園ゆいまあむ 2018 年 4 月 1 日開園に向けて、現場では、設計・建築・備品準備と職員募集に専念しました。本部は、川崎市の整備補助や福祉医療機構の借入手続きに加え、銀行からのつなぎ資金借入など、資金繰りに専念しました。おかげさまで、4 月 1 日無事開園しました。
- ② 保育園小さなほし 2019 年 1 月移転に向けて、地主と建設事業所(株)スターツとの協議に入り、現場の保育園は主に設計図の調整に入り、藤沢市との協議を行いました。本部は、地主や建設会社との契約と福祉医療機構への借入申請などで準備の支援をしました。
- ③ そらまめ保育園は、2019 年 4 月 1 日移転に向けて、本部として地主や建設会社(株)セキスイとの設計図の協議や契約事務等を支援しました。
- ④ あつぎポポロは、ポポロ戸室・ポポロ本厚木・おひさまっこ保育園の 3 事業所の移転に伴い、新規事業として厚木市から整備決定を受けた地域密着型特養の建設準備を担いました。
 - i. 当初予定していた厚木市水引の土地が使用不可となったため、新規の土地を探し、厚木市東町に適地を探すことができました。厚木市から、新たな土地での整備許可書が届きました。
 - ii. 当該土地が細長いため、神奈川県との協議に時間がかかりましたが、多床室 8 床を入れることで年末に県から OK ができました。
 - ii. 当該土地が厚木市の埋蔵文化財発掘地域だったため、発掘業者の入札を行い、業者を決定しました。(2018 年 4 月 2 日入札)
 - iii. 厚木市と神奈川県に向けて、整備費補助申請の準備をしました。
 - iv. 厚木市まちづくり条例に則り、3 月 29 日地域説明会を開催しました。
 - v. 地域密着型特養は、単独では経営困難な事業です。そのため、複合施設にしていますが、土地代金に建設費がかさみ、前回の理事会に 7 億 1 千万円の多額な借入を提案しました。しかし、次世代の事業運営が返済に追われるような困

難をきたさないよう、借入金を減らす事業計画を試算しました。(今回の理事会に議案提出)

その他の計画

3. 地域公益活動を推進しました。

1 昨年からあつぎの保育園 ViVi とおひさまっこ保育園が始めた「一時保育料金と定期保育の延長料金の非課税世帯の無料化」のうち、保育の延長料金については、厚木市の制度となりました。民間の公益活動が市の制度を促しました。

一覧表のとおり

地域公益活動のまとめ (2017 年度)

事業所・施設	地域公益活動の内容	
ポポロ戸室	有料老人ホームに生活保護世帯の低額入居 (半額)	3 人入居
	地域主催の認知症カフェに施設を無料提供	毎月開催
ケアセンターあさひ	ミニデイサービス 6 ヶ所で体操・ゲーム手伝い 職員グループ「きりん」拠出金による活動 災害義援金、基金により他団体支援：赤十字募金 チョコレート基金 貸室料支援、行事支援など	
ポポロ本厚木	ミニデイサービス	年 8 回
	日曜サロン	年 2 回
ポポロ中山	地域サロン	毎月第 2 日曜日
市ヶ尾ポポロ	ふれあい昼食会 (老人会・自治会参加)	年 4 回
ガーデンハウスもも	非課税世帯の利用料金減免	1 人
	緊急時宿泊受け入れ	6 名
	ゴミ集積所の清掃	毎月 1 週間
まんまる保育園	子育て応援講座	年 4 回
	園庭開放	月 1 回
	民生委員協議会主催の子育てサロンへの協力	年 3 回
	チョコ募金 (イラク・福島の子ども達への支援)	年 1 回
保育園 ViVi	親子サロン (わらべ歌、絵本、食育、気功)	毎週 1 回
	一時保育料金を市民税非課税世帯は無料 (園独自)	
	中高ボランティア受け入れ	
	中学生職場体験受け入れ	
	近隣 (しみず公園) 掃除	年 3 回

	職員グループ ぼちぼちの会 「子ども未来ファンド」へ寄附 フェアトレード購入 チョコレート基金	
おひさまっこ保育園	中高生ボランティア受け入れ	2校
	土曜サロン	年3回
	一時保育料金を市民税非課税世帯は無料（園独自）	
	職員によるフェアトレード購入	
そらまめ保育園	土曜サロン（叱らない子育て、絵本、食品表示）	毎月1回
もものか保育園	助産師さんの母乳ケア&ママサロン	毎月1～2回
	もものかサロン	年3回
	土曜じゅく	年2回
せせらぎ保育園	助産師さんの母乳ケア&ママサロン	毎月1回
	親子サロン	年5回
	中学生体験学習	年3回
とんとん	近隣公園の清掃参加	
保育園小さなほし	親子ルームきらきら	年11回
	保育延長料金を保育料無料世帯は無料（園独自）	
	中高生ボランティア、職業体験受け入れ	
	もちつきに地域老人ホーム招待	

4. 法人役員保険に加入しました。

5. 災害計画および災害復興計画は、準備中です。

各事業所の主なリーダーたちが、新施設づくりのリーダーになっているため、災害計画策定は、優先順位が下がらざるを得ません。施設づくりが落ち着いたら取り組みます。

6. 居宅介護支援事業所併設訪問介護事業所「NPO 法人ワーカーズコレクティブさち」の事業受譲は、中止になりました。厚木市第1号のヘルパー事業所でしたが、リーダーたちの高齢化により事業を来年廃止・閉所することに決定しました。職員個人の採用を進めます。

（報告者 理事長 又木京子）

高齢事業部

老いへの不安、藤雪会は安心を支えます

- (1) 利用者にとって最善のサービスを提供できるよう努めました。
有料老人ホームは看取りの方が多く、定員割れとなりました。小規模多機能型居宅介護は厚木と横浜事業所で利用者、人員配置などで収支差が大きく出てしまいました。通所介護、グループホームはほぼ順調に推移しました。
- (2) あつぎポポロ建設予定地を東町に購入しました。設計がほぼ出来上がり、いよいよ本格的に施設づくりに取り組みます。地域に向けた説明会を開催しました。2019年10月開所に向け、主となる人員配置を決め担当部署ごとの話し合いを行っていきます。横浜でも引き続き土地を探していきます。
- (3) 人手不足は続いています。事業所間の連携を取り兼務することで補いました。また入職面接時に、法人他施設の説明を行い、必要に応じ臨機応変に配置しました。
- (4) 引き続き車両事故ゼロ運動に取り組みました。大きい事故はありませんでしたが、軽微な事故はどこの事業所にも見受けられました。次年度は、交通安全研修を取り入れ意識を高めていきます。
利用者の身体状況の低下により、転倒事故が増える傾向にあります。見守り強化や、センサーマットを取り入れています。居室内で同じ方の転倒の繰り返しがありました。ケース検討、担当者会議で改善策に取り組んでいます。
- (5) 研修は新人研修以外に常勤指名研修として、顧問弁護士による「裁判例から学ぶ高齢者施設の事故の法的責任と安全管理」、社会保険労務士による「就業規則について」、法人理事による「介護人材養成、キャリアアップについて」を行い、どの職員も意欲的に取り組みました。
- (6) それぞれの事業所で、地域に向けたミニデイサービス支援や、カフェなどを定期に開催し、地域の方に喜ばれています。
- (7) 各リースを見直しました。今後車輛は購入していきます。見積もりを丁寧に行うことで支出を抑える努力をしました。機器類のリースについても各事業所で見直していきます。

(報告者 高齢事業部長 島山香織)

子ども事業部

生きる根っこの0歳から6歳。藤雪会は、育ちを支えます。

1. 川崎市の市有地の保育園整備事業に応募し、藤雪会が選考されました。「保育園ゆいまあむ」を2018年4月1日開園します。また、8月には、「保育園小さなほし」が移転に向けた準備を始めました。さらに、ポポロ本厚木の移転に合わせおひさまっこ保育園も移転（新築）することになり準備を始めました。そして、「そらまめ保育園」が2019年4月1日60人定員の保育園として開園するため移転の準備を始めました。

2. 各事業所は、通常保育、一時保育、児童発達支援、障がい児保育、休日保育等の事業を通して地域の子育てを応援しました。特に、一時保育では、他機関（児童相談所、市役所保育課、保健福祉センターなど）と連携し、子育てに疲れた親を受け入れ、支援を行いました。

また、各事業所は、親子サロン（育児講座）、子育て相談、施設の地域開放などを開催し、地域福祉に貢献しました。

3. 職員の業務への取り組み姿勢の向上やスキルアップを図る研修に取り組みました。

入職3年以内程度の職員を対象に新人職員研修をおこないました。施設長の資質向上をめざす研修では、法人が提携している特定社労士から労務管理を学び、また、顧問弁護士による「裁判から学ぶ保育事故の法的責任と安全管理」には、各事業所の職員も参加しリスクマネジメントについて学びました。

新人職員研修	4/22（社会福祉法人 藤雪会とは）
施設長研修	5/27（リスクマネジメント） 6/29（労務管理） 9/30 法制度の改定にあたり、藤雪会の保育理念、保育運営方針を確認する

4. 各事業所の第三者委員の方々との懇親会に参加し、第三者委員の役割等について学び懇親を深めました。

5. 各事業所は、ヒヤリハットの集積を続け、事故を未然に防ぐリスクマネジメントに取り組めるよう努力しました。

6. まんまる保育園の年長児が、ケアセンターあさひを訪問し、交流を深めました。

おひさまっこ保育園、保育園 ViVi は、日常的に、ポポロ戸室、ケアセンターあさひを訪問し、交流を深めました。

（報告者 子ども事業部長 佐藤洋子）